

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 11 日現在

機関番号：22101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：平成 22 年度 ～ 平成 23 年度

課題番号：22659393

研究課題名（和文） リハビリテーション看護師の職務満足度と役割受容に関する研究

研究課題名（英文） Study on job satisfaction research and role-acceptance of nurses who practice rehabilitation nursing

研究代表者

関根聡子（SEKINE SATOKO）

茨城県立医療大学 保健医療学部・嘱託助手

研究者番号：30464522

研究成果の概要（和文）：

リハビリテーション（以下、リハと略す）看護の質向上のための一検討として、回復期リハ病棟に勤務する看護師の役割受容と職務満足の特徴について質問紙調査を実施した。結果、対象者は生活における役割活動の中で仕事役割を高く位置づけており、職務満足と役割受容の間には相関関係が見られたが、役割達成や役割評価、役割有能感にはつながりにくいことが示された。また、職務満足について、看護師としての過去の経験やリハ専門病院での勤務か否か、そして学びの機会があると感じているかどうか現在の職務満足に影響を与えることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：

In order to improve the quality of rehabilitation nursing, nurses working at recovery rehabilitation wards were surveyed by a questionnaire to assess the levels of their perceived job satisfaction and role acceptance. Their work role engagement was regarded higher in their life roles. A correlation was indicated between their job-satisfaction and role-acceptance, however, it was hardly affected by their role-achievement, role-esteem and role-competence. Job satisfaction was subject to their experiences as a nurse, with regards to the degree of rehabilitation specialty of their hospital and the learning opportunities available to them.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	0	500,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
年度			
総計	800,000	90,000	890,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学 看護管理学

キーワード：回復期リハビリテーション病棟 看護師 職務満足 役割受容

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の老年人口は年々増加傾向にあり、2005年には65歳以上の割合が20%を超える高齢社会となっている。また、近年は脳血管疾患の治療法の進歩により、多くの人が命を救われるようになった。以上のことからリハビリテーション（以下、リハと称す）の需要は年々高まっているといえよう。ここで、リハ看護であるが、上記のような状況の中でその専門性が重要視されつつある。日本看護協会でも、認定看護師制度において2005年に摂食・嚥下障害看護、さらに2008年に脳卒中リハ看護の分野を設置しており、これらは世の中のリハ看護へのニーズの高さを反映した動きと考えられる。

以上のように、社会的必要性・重要性が高まっているリハ看護であるが、その役割はケアの実施以外に、「心理面の支持・教育者・調整者・地域社会との仲介者・患者の代弁者」と多岐の領域があげられている（石鍋ら、リハ連携科学、2000）。また、リハ看護は患者の障害受容過程にかかわるため、対人関係において高度な技術を要する役割であるといえる。さらに近年の役割変化として、2006年の医療制度改革大綱による急性期病院の在院日数の短縮化により、急性期に近い患者の医療的処置への対応力が、より必要とされてきている。以上のようにリハ看護は、看護師として高い能力が必要な領域であるが、実際の業務においては調整等の「目に見えにくい」技術の使用が多く、また、急性期の看護に比べ医療行為は最小限であり、更に自立を促すよう援助するため、他者から見てひと目で理解できる「診療の補助」や「療養上の世話」が少ない。このことは、患者側からすると看護師の役割を認識しにくくなるようで、そのような主旨の言葉を患者の口より筆者も聞くこともあった。このような患者等の他者の認識は、リハ看護師の役割意識をあいまいにしたり、看護師自身の役割受容や職務満足度の低下を引き起こす可能性があると考えられる。

ところで、役割あいまいさについては、職務満足との間に有意な負の相関があることを指摘されている。（Rizzoら、Administrative Science Quarterly、1970）そこで本研究では、リハ看護を実践している看護師の役割受容と職務満足度の関連や特徴を調査することにより、それら看護師の職務満足度の向上のための手がかりを得られるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

先行研究では、病棟看護師の職務満足と入院患者の満足との間に相関関係が見られている（藤村、香川大学経済論叢、1997）。これより、リハ看護を実践する看護師の役割受

容と職務満足度の関連や特徴が明確になることは、リハ看護を実践する看護師の職務満足度向上の手がかりとなり、さらには患者の満足向上へつながるということで、リハ看護の質の向上を図る上での一つの手がかりとなるであろう。

以上より、本研究では、リハ看護を実践する者として回復期リハ病棟に勤務する看護師を対象とし、「回復期リハ病棟に勤務する看護師の役割受容と職務満足度について調査・検討し、リハビリテーション看護を実践する看護師の役割受容と職務満足度との特徴について明らかにする」ことを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 研究デザイン

調査用紙を使用した量的研究。

(2) 調査方法

①データ収集期間：平成23年2月～5月。

②対象者の決定：「全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会」に会員登録している病院等を参考に調査協力依頼病院を決定し、平成23年12月～1月に研究依頼文を郵送した。そして研究協力の了解が得られた病院に対し調査用紙を配布した。

対象者は、研究協力の了解が得られた病院における回復期リハビリテーション病棟の看護師（師長及びその補佐は除く）のうち、常勤であり正看護師の資格を持つ、以下のどちらかの条件を満たす者とした。

- ・新卒から回復期リハ病棟で勤務し、勤務経験が3年目以上の看護師
- ・回復期リハ病棟以外での、3年を超える勤務経験を有する看護師

(3) 質問項目

経験年数や経験病棟など対象者の属性に関する質問、石鍋らが作製した看護の機能の項目を使用した「リハビリテーションにおける看護の重要項目と自信のある項目」を問う質問、志自岐が邦訳した看護師の職務満足調査用紙「日本語版 McCloskey and Mueller Satisfaction Scale」（以下、JMSSと略す）、三川が作成した「役割受容尺度」とした。

(4) 分析方法

SPSS Ver19 for Windowsにより記述統計、因子分析、相関係数算出、重回帰分析、t検定等を実施した。

(5) 倫理的配慮

研究対象者に、目的、方法、参加は自由であること、調査は無記名で行い個人は特

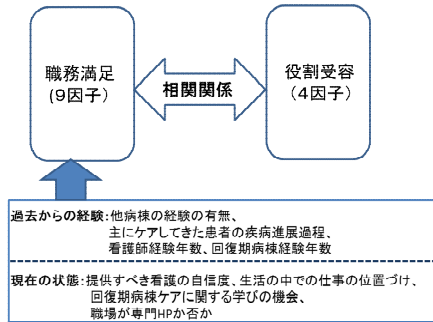
定されないこと、収集情報の保管と処理の方法、調査表の回収をもって同意を得たとみなすことを書面にて説明した。

本研究は、茨城県立医療大学倫理委員会において承諾を得て実施した。(茨城県立医療大学倫理委員会 414)

4. 研究成果

本研究における概念枠組みは図1の通りである。

図1 回復期リハ病棟看護師の職務満足度と役割受容の関連 概念図



(1) データ収集

研究対象基準より抽出した全国の283病院に調査協力を依頼し、103病院より研究協力の了解を得た。了解の得られた病院それぞれに質問紙を郵送し、対象看護師への配布を依頼した。配布した質問紙総数は1258部、回収数は770部(回収率61.2%)、有効回答数624部(有効回答率49.6%)であった。

(2) データ分析

今回、男性看護師の協力者数が42名と少なかったこと、女性と男性でデータの示す傾向が異なったことから、女性看護師に焦点を当て分析を実施した。今回対象となった女性看護師の概要は表1の通りである。

属性		n	(%)	平均値 ±標準偏差
病院の種類	リハ専門病院	245	42.1	
	リハ専門以外の病院	337	57.9	
看護専門教育課程	看護師養成2年過程	182	31.3	
	看護師養成3年過程	334	57.4	
	短期大学・大学・大学院	60	10.3	
	助産師・保健師養成学校	5	0.9	
回復期リハビリテーション病棟以外の勤務経験	あり	540	92.8	
	なし	40	6.9	
平均年齢				38.75 ±8.317
平均看護職経験年数				15.08 ±7.374
平均回復期リハ病棟経験年数				4.26 ±2.647

また、今回職務満足については、JMMSSの項目に加え、リハ看護は患者の障害受容過程にかかわるため対人関係において高度な技術を要することから、満足度を確認する項目に「患者との関係」「患者家族との関係」の2項目を追加して調査を実施した。回収されたデータに対し因子分析(直接オブリミン

法)を行い、職務満足の因子を9因子(職務遂行環境、週末休暇、対象との関係、コントロールと責任、相互交流、専門職としての機会、スケジュールの柔軟性、賞賛と是認、報酬)として検討を行った。(Cronbackのα係数=0.916)

① 職務満足と役割受容

職務満足の平均得点は、98.83(SD=15.92)で、平均得点率は59.9%であった。

また、役割受容に関しては、全体の平均得点は85.97(SD=13.206)、各因子ごとでは役割満足25.26(SD=4.92)、役割評価24.24(SD=5.37)、役割有能感13.91(SD=3.87)、役割達成22.59(SD=3.09)であった。これら各因子ごとの平均得点は、三川が調査した大手企業女子社員(パートタイム含む)を対象としたデータと比較すると、すべての因子において下回っていた。(三川、追手門学院大学文学部紀要、1988)

② 職務満足と役割受容の関連

本研究では、「仕事」という役割が対象者の生活の中でどの程度重きが置かれているかを把握するため、5つの役割(仕事、家庭や家族、社会的活動、勉強、趣味やレジャー)を提示しそれぞれに優先順位をつけてもらった。「仕事」について順位を1位又は2位と回答した対象者は、76.4%であった。

次に職務満足と役割受容の相関関係について見ると、 $|r| > 0.4$ の相関関係を認められた関係は、表2の通りであった。

職務満足	役割受容	相関係数
全体	全体	0.482**
(因子別)		
役割遂行環境	役割満足	0.421**
コントロールと責任	役割満足	0.440**
賞賛と是認	役割満足	0.440**

1)「全体」はpearsonの相関係数、その他はspearmanの相関係数
2)**p<0.01

以上より、回復期リハ病棟に勤務する多くの看護師は、仕事役割を生活の中で重要なものと位置づけていることと、職務満足は役割受容とかなりの相関があることが明らかとなった。

しかしながら因子別に相関関係を見てもみると、職務満足の因子で役割受容の因子と高い相関が見られたのは「役割満足」に対してのみであった。今後は、役割達成や役割評価、役割有能感にも関連する職務の在り方について、検討の余地があることが示唆された。

③ 職務満足とそれに影響する要因

職務満足について、各属性別にデータを分類し、有意差を確認した。主な結果は表3の通りであった。

更に属性別に有意差があった職務満足の因子別の平均得点をみると、病院種別ではリハ専門病院のほうがすべて値が高く、看護職経験年数・他病棟経験年数については年数が少ないほど値が高くなる傾向があった。また、回復期病棟以外の経験の有無では、経験がないもののほうがすべての項目において値が高く、学びの機会については多いと感じている者のほうがすべての項目について値が高かった。これら結果より、職務満足について、看護師としての過去の経験やリハ専門病院での勤務か否か、そして学びの機会があると感じているかどうか現在の職務満足に影響を与えることが示唆された。

表3 属性別の職務満足の比較

	属性	病院種別	看護職	他病棟	回復期リハ病	学(校)の機会
			経験年数	経験年数	棟以外の経験	
グループ構成		リハ専門病院か 一般病院か	5年ごと 7グループ	5年ごと 7グループ	あり/なし	平均値より 高い群/低い群
職務遂行環境				○	○	○
週末休暇					○	○
対象との関係					○	○
コントロールと責任		○				○
相互交流		○	○	○	○	○
専門職としての機会						○
スケジュールの柔軟性		○				○
賞賛と承認		○	○	○	○	○
報酬		○				○
職務満足合計				○		○

- 1)「○」のついている箇所は有意差あり
 2)2群の項目については、Shapiro-Wilk検定により正規性を確認し、その結果により検定またはMann-Whitney検定を実施
 3)3群以上の項目については、Shapiro-Wilk検定により正規性を確認し、その結果により1元配置分散分析またはKruskal-Wallis検定を実施
 4)2)、3)ともにp<0.05

(3) 今後の展望

今回の研究では、回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師についての調査を行ったが、今後は、本調査では協力者数が少なく検討することができなかった男性看護師や、急性期等の他の疾患進展過程の患者を対象とした病棟の看護師への調査を行い、それぞれの特徴や共通点を検討していくことで対象群ごとの個別性にも対応した、看護師の職務満足を高める介入方法を検討することができると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

- ① 関根聡子、吉川美枝子、市村久美子、回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の職務満足と役割受容の関連、第31回日本看護科学学会学術集会、2011年12月2日、高知県高知市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

関根 聡子 (SEKINE SATOKO)
 茨城県立医療大学・保健医療学部・嘱託助手
 研究者番号：22659393

(2) 研究分担者

吉川 三枝子 (YOSHIKAWA MIEKO)
 茨城県立医療大学・保健医療学部・教授
 研究者番号：70453024
 市村 久美子 (ICHIMURA KUMIKO)
 茨城県立医療大学・保健医療学部・教授
 研究者番号：00143149